

認知機能検証試験

多様な検査を組み合わせ、総合的な評価が可能！

弊社では、認知機能を測定し、食品摂取による認知機能維持・改善作用を検証致します。
認知機能の分類方法には、一例として、「記憶力」、「言語能力」、「判断力」、「計算力」、「遂行力」などがあります。

代表的な認知機能の評価方法

Cognitrax

記憶力・注意力・処理速度・実行機能など広範囲の機能領域を測定し、結果は数値化され、年齢標準値との比較で示されます。個人の値を経時的にモニターすることにより記憶力や認知機能の変化を見つけることが可能です。

(cognitrax紹介資料より)

MMSE-J (Mini-Mental State Examination- Japanese Version)

スクリーニング検査で使われますMMSEは国際的に最も広く用いられており、感度、特異度、簡便さ、これまでのデータの蓄積量から最も推奨されています。

(日本神経学会 2012年ガイドライン 認知症の判断より)

MoCA-J (Montreal Cognitive Assessment- Japanese Version)

MoCAは軽度認知機能障害(MCI:Mild Cognitive Impairment)を検出するためのスクリーニング検査として開発されたものです。視空間・遂行機能、命名、記憶、注意、復唱、語想起、抽象概念、遅延再生、見当識をみることができます。

(日本臨床学会 Websiteより)

評価バッテリー(評価方法の最適な組み合わせ)

ヘルスクレームの内容により、認知機能評価の専門家と連携・各認知機能評価方法を組み合わせ、評価バッテリーを組むこともできます。(例：WAIS + WMS-R + TMT- Prart A, Prart B)
試験の目的に合ったご提案をさせていただきます。

WAIS (Wechsler Adult Intelligence Scale)

知的発達のアセスメントに用いられている代表的な知能検査の一つです。この検査は、言語理解、知覚推理、ワーキングメモリー、処理速度の4つの領域を評価します。

WMS-R (Wechsler Memory Scale-Revised)

16歳～74歳までの青年および成人の記憶の主な側面を評価するための検査です。

短期記憶と長期記憶、言語性記憶と非言語性記憶、即時記憶と遅延記憶など、記憶が持つ様々な側面を総合的に測定します。

TMT (Trail Making Test) ※Prart AとPrart Bあり

TMTは、視覚探索や処理速度、注意やセットの切り替えの柔軟性、ワーキングメモリといった能力が求められる課題です。



食品・化粧品のヒト試験受託企業

株式会社ケイ・エス・オー
<http://www.kso.co.jp>

〒105-0023

東京都港区芝浦 1丁目9番7号 芝浦おもだかビル7階

TEL : 03-3452-7733

FAX : 03-3452-7833